

採択 不採択 の拡充 の継続



12月定例会のあらまし

平成26年第4回定例会は、11月28日から12月16日まで開催。報告1件、諮問7件、議案33件が提案されました。

一般質問には19名の議員が登壇し、市長等の考えを質しました。

議案審議は、「奥州市水道事業料金条例の一部改正」や補正予算などを審議し、原案どおり可決しました。

地域医療調査特別委員会、I・LC誘致及び国際科学技術研究圏域調査特別委員会、議会改革検討委員会は各1回開かれました。

常任委員会に付託した請願「子どもの医療費助成制度の拡充についての請願」は採択とし、継続審査となっていた「納税貯蓄組合事業補助金の継続についての請願」は不採択としました。

事務事業の見直し項目 2件の請願を審査

9月定例会で継続審査となっていた「納税貯蓄組合事業補助金の継続について」及び今期定例会に提出された「子どもの医療費助成制度の拡充について」の請願2件をそれぞれ所管する常任委員会に付託し審査、本会議において委員会での審査結果について審議し採決を行いました。いずれの請願も事務事業・公の施設見直し項目に含まれる内容で賛否が分かれました。

賛成多数
採択

子どもの医療費助成制度の拡充について 市独自助成の継続と拡充を

請願の内容

奥州市では小学校卒業までの独自助成を行ってきていますが、先の「行革プラン」では、独自助成の縮小と所得制限を設ける内容となっています。少子化対策や子育て支援の基本姿勢から大きくかけ離れ、他市町村との比較でも後退していると言わざるを得ません。

子育て世代の経済的負担をなくし、安心して通院や治療が受けられるよう独自助成の継続と拡充を求めるものです。

請願者

母親大会奥州金ヶ崎
実行委員会
実行委員長 菅原栄美

付託委員会の結果

付託された教育厚生常任委員会では、「次世代の若者や子どもたちが希望を持ち、夢を描けるま

ちにするためにも財政が厳しくとも支援を後退させるべきではない。」「少子化傾向だからこそ独自助成制度を継続し、奥州市で子どもを産み育てて欲しいというメッセージを発信すべき。」「所得に応じた負担の公平性や市の財政状況などを踏まえ、応能負担とする今回の見直し案は理解できる。」等の意見があり、慎重審査の結果、委員会では採択すべきものと議決しました。

本会議の結果

委員会での審査結果について審議を行い、採決の結果、賛成多数で採択としました。

反対討論

医療制度は、地域で格差があつてはならず、国や県の責任において支援制度を拡充すべきである。今回の見直しは、所得の低い世帯や入院の保障がされておらず、すべてが後退ではない。次世代に負担を先送りしないためであり、現時点で拡充は難しいと考える。

賛成討論

奥州市は「子育て環境ナンバーワン」を標榜し

賛否はP15に掲載

ており、本来大切に守り、育むべきものを見失ってはならない。若い世代が働きやすく、学びやすい、そして子どもを産み育てやすい環境づくりをすることこそが、人口減少対策において最も大切であることは明らかである。医療費制度の見直しそのものが、行財政改革にそぐわないと考える。